

## 全国各地の検査時“不具合事例”を集約・公表

全国規模の協会だからできる横断的調査・データ収集。他社ではどんな高圧ガス設備の“不具合が発生”しているのか。事例でわかる対策のヒント。貴重な年度データが満載

～JLPA 機関誌『LPガスプラント』秋季号 10/20 発行～

一般社団法人 日本エルピーガスプラント協会(東京都港区、会長：舟木 隆、以下 JLPA) は、機関誌『LPガスプラント・秋季号』で、全国の協会会員社の協力で収集した 2021 年度検査時「不具合事例」データを集約・紹介、自主保安と検査の重要性を訴える情報を公開します。

JLPAは昭和36年に、主にLPガス設備(プラント)に関する技術の発展と保安の徹底を目的に発足し、昭和53年に公益法人認可、更に平成24年4月に一般社団法人認可を受け、今年設立61年目を迎えました。会員数は全国に広がり108会員で構成。この会員のうち約7割が、高圧ガスプラント設備の「安全性の検査」を担う検査事業会社です。

今回公表される調査データはJLPA主導で、北は北海道、南は沖縄まで全国の検査事業者より年一回、日本全国規模で継続調査している“定期自主検査、保安検査前検査”における各種検査項目ごとの不具合項目を「写真付き」で分かりやすく集約したものです。2021年度の不具合事例紹介は、33事例に上ります。(※ なお、写真による事業者特定は、出来ないよう配慮してあります。)

これらを暦年で縦覧すれば、不具合発生に係る高圧ガス設備の「状況」、不具合発生の「傾向」を検証できる大変貴重なデータベースとなり、「自主保安」推進を掲げる当 JLPA が、より多くの方にこの情報を知っていただき、活用願いたいとの思いから継続的に取り組んでいる活動の一環で、発刊60周年を契機に表紙等体裁を刷新する機関誌の紹介と共に、今回、当該情報の掲載を広く公表するものです。

### 【活動の規模と、データの表す意味】

JLPA内の検査事業者委員会に所属している検査事業者は、全国各地で検査事業をおこなっており、国内で空白となるエリアは、ほぼ無いと言ってよい規模です。

よって、今回公表される検査事業者委員会の保守検査時の不具合事例調査の集計データは、全国で起こる不具合発生傾向を反映していると言えます。特に直近3年間における不具合データの報告は、検査事業者委員会を構成する会員全体の70%以上からいただいております。その調査意義を理解した会員からの報告は、年々増加傾向で、更なる精度の向上が毎年図られております。

## 【 J L P Aとして、保守検査における不具合事例収集活動をおこなう意義 】

一製造事業者単位で考えた場合でも、保守検査をおこなう事により、未然に不具合箇所を見つけ、改善措置を行う事は、設備の保全と保安・安全確保を行うために有効であることは明白です。

さらに、そのエビデンス・記録を継続的に残すという事こそが、とても重要です。この活動無くして「未来の」保安全管理者に、今まで永続的に「なぜ、どのように」保守検査をおこなってきたのかという意義や事業継続の努力や施策を、正しく伝えることはできません。

このことは、私ども自身＝J L P A会員としても、組織的な不具合集計を確認することで、自らが過去に経験した不具合事例だけではなく、“未経験の不具合”についても発生傾向を把握することができるということに繋がり、大きなメリットがあります。

また、不具合発生傾向を押えることによって、予備の部品・資材を準備しておくことも可能となってきます。物によっては、すぐには補充できない資材もあり、たとえ製造事業者自らが交換できなくても、J L P A会員である検査事業者に事前支給することで大幅に改善までの時間を短縮することもでき、事業継続が担保できます。

加えて、プラント運用開始時には、行政機関がプラント製造事業者の報告を受けて、初期データは作成しておられますが、プラントを継続的に運転していく過程の不具合データは、協会主導で保守検査時の情報収集を事業として行っている、J L P A検査事業者委員会のみが作成できるといった点で貴重だと考えます。

## 【 調査事例を通じて、検査事業者が保守検査を実施するメリットを知ってほしい。】

保守検査は、各製造事業者が自身でおこなうことも可能です。しかし、高価な検査機器を事業者自身で揃えられ、精度も継続的に維持する事は、コスト面でも効率、精度面にも多くの困難があります。また、検査を担当される方の作業の要領を考えると必然的に検査時間も長くなるはずで。

一方、専門の検査事業者は一式の検査機器を年間数百回使い、ひとりの検査員が年間数百件の検査を経験するため、検査機器精度維持に掛かるコスト面や精度自体、検査作業効率は圧倒的に優れていると言えます。

プラント新設時には初期不良、既設運転下では経年劣化。間違った使い方・ヒューマンエラーによって不具合が起こることもあります。日常運用で気付けるような不具合もあれば、検査をおこなわなければ発見できない不具合もあります。今回のように、検査事業者ならではの、日々直面する不具合事例・発見の事例を広く継続的に公開することで、J L P A会員の高い経験値とスキルを正しくご理解いただき、専門的な視点を持つが故に発見できる不具合事例の存在と、事故の未然防止に役立っている我々の事業活動を、広く社会に知っていただきたいと念じ、今後も当該活動を続けてまいります。

《本件に関するお問合せは》  
一般社団法人 日本エルピーガスプラント協会  
電話 03-5777-6167